

図書館だより 10月号

令和8年10月1日発行
王滝村教育委員会
村民図書館(TEL: 48-2134)

11月の読書会は11月12日(木曜日)13時30分からの予定です

先月九月十日に行われた読書会では、最近、図書館に入った新刊本『移住と空き家』が紹介されました。(著者：垣谷美雨 朝日新聞出版)

この本の題名の『移住』から話題が飛び、王滝村へ移住してくることに、様々な意見が交わされました。興味深いことに、この日の参加者は、村生まれでUターンの一人を除いて、全員が村外からやってきた人たちでした。皆さん、住み着いて三十年以上になる人ばかりです。

三十年以上経ってもなお「よそ者」と言われるのはなぜか、「よそ者」と言われなくなるまでには、何年かかるのか、そんなことを言うなら東京は「よそ者」ばかりの街じゃないか、などと大爆笑を交えながら忌憚^{きたん}のない意見の交換会となりました。おおまかに百年(三世代)過ぎてようやく、その「地元の人」になると言えるのではないか、移住して楽しい毎日を過ごすために一番良いのは「二拠点生活」をすることではないだろうか、という意見が出たりして、うなずく人が多かったようです。

この本は、面白くてあつという間に読めますので、ぜひ、手に取ってご覧ください。この本を読んだ人が増えた頃に、また、読書会で取り上げてみようかと考えています。

参加者の一人が持ち寄ってくれた本の中に、「世界がもし100人の村だったら」という題名の興味深い本がありました。小さくて薄い本です。本文は、「世界には63億人の人がいますがもしもそれを100人の村に縮めるとどうなるでしょう。100人のうち…」と始まります。どのページが印象的かは、読んだ人により違います。この本を読んだ2人の参加者のお勧めのページを以下にご紹介します。

世界がもし100人の村だったらそのうちの：

Aさん…20人は栄養がじゅうぶんではなく、1人は

死にそうなほどです。でも15人は太り過ぎです。残りの人々は、そのどれにも当て

はまりません。

Bさん…33人がキリスト教、19人がイスラム

教、13人がヒンドゥー教、6人が仏教を

信じています。5人は木や石など、すべて

の自然に靈魂があると信じています。24

人は、ほかのさまざまな宗教を信じている

か、あるいは何も信じていません。



『話したい、使いたい 心ときめく 言葉の12か月』(監修：山根基世 出版社：KADOKAWA)の中には秋を表す美しい言葉(季語)がたくさん出てきます。

「山粧う」…山粧う季節になりました…

「雁渡し」…雁渡しの風が吹く中を足早に…

「菊日和」…祖母と歩いた菊日和の公園に…

「秋麗」…今日は、秋麗の一日だった…

「釣瓶落とし」…秋の日は釣瓶落としだよ…

「夜長」…秋の夜長を鳴き通す虫の声…

秋の夜長に、ゆっくりとした気持ちで本を手にとってみてはいかがでしょう。

『大切なこと』(著者：内田彩仍 出版社：PHP研究所)より抜粋・紹介します。

「……それでも、夜眠る前に手に取るのは紙の本。紙の本からは、写真の質感や空気感がより鮮明に伝わってきます。文字の並びや余白に美しさを感じられ、私には読み心地がよいのです。紙の本は、気持ちに余裕がないと開けない気がして、今日一日の疲れを測るバロメーターのよう。心が忙殺されないためにも、本を開けるくらいの気持ちのゆとりを取り戻してから、眠れたらと思っています。」

新刊本紹介

書名	著者	出版社	ひとくちコメント
クロワッサン 本当に使える防災 の知識		マガジン ハウス	災害対策は必須。正しい知識と便利な道具、両面 から備えを万全にする一冊。
ビジュアル 「生きる技術」図鑑	かざま りんぺい	誠文堂 新光社	防災、キャンプに役立つ「サバイバルテクニック」が 図解で分かりやすく紹介されている。イザという ときに活躍する豆知識満載の本。
はるの献立日記	黒木 はる 華	飛鳥新社	料理が大好きな俳優の黒木華さんの 1 年 365 日、食卓の記憶と記録の写真入りレシピ本。
墓じまいラブソディ	垣谷 美雨	朝日新聞 出版社	今月の図書館だよりのおもて面で紹介されている 『移住と空き家』を書いた作家の新着本。この本で は、お墓問題を取り上げていますが、あまりにも現 実的で思わず吹き出してしまう場面も。少子化、夫 婦別姓の問題なども盛り込まれており、主人公と一 緒に今の時代を考えることが出来る一冊。
永遠の記憶	東野 圭吾	文藝春秋	東野圭吾最後の作品となってしまった106冊目 の『永遠の記憶』は、想定外の売れ行きで一時書店 では売り切れ状態が出たほど。是非とも、一読を。
ガザ 戦争しか知らない 子どもたち	せいた 清田 明宏	ポプラ社	今も繰り返される戦争。 「戦争しか知らないこともたち」がいることを、平 和を願うすべての人に届けたい写真絵本。
夜を、編む	横山 起也	角川文庫	癒しの手仕事シリーズ。 編み物編



新刊絵本紹介

『おまつりをたのしんだおつきさま』 メキシコのおはなし マシュー・ブラウン 作

『冬にやってきた春と夏と秋』 気候変動についても考えさせる絵本 ジョナサン・フリードラ 作

『プラスチックのうみ』 SDGs ゆたかな海をとりもどすには? ミッシェル・ロード 作